

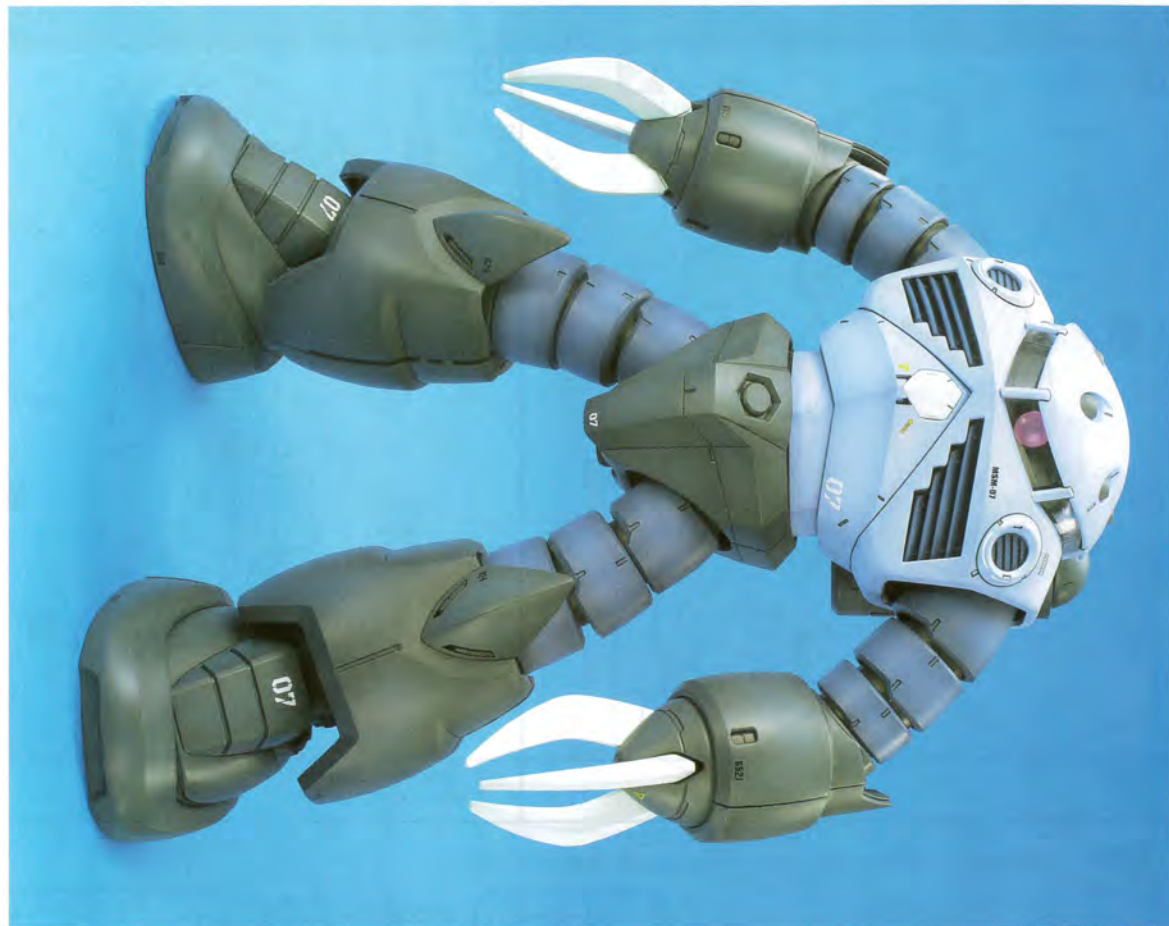
GUNDAM.INFO Search
www.gundam.info
www.bandai-hobby.net/
パソコン・携帯電話からのご利用は別途料金がかかります。
Any fees accrued by your access method and connection to the website are your own responsibility.



MOBILE SUIT
MSM-07

Z'GOK

PRINCIPALITY OF ZEON MASS PRODUCTIVE
AMPHIBIOUS MOBILE SUIT



ジオン公国軍
量産型水陸両用モビルスーツ
MSM-07「ズゴック」
1/100スケール
マスターグレードモデル

MSM-07 Z'GOK

PRINCIPALITY OF ZEON MASS PRODUCTIVE AMPHIBIOUS MOBILE SUIT



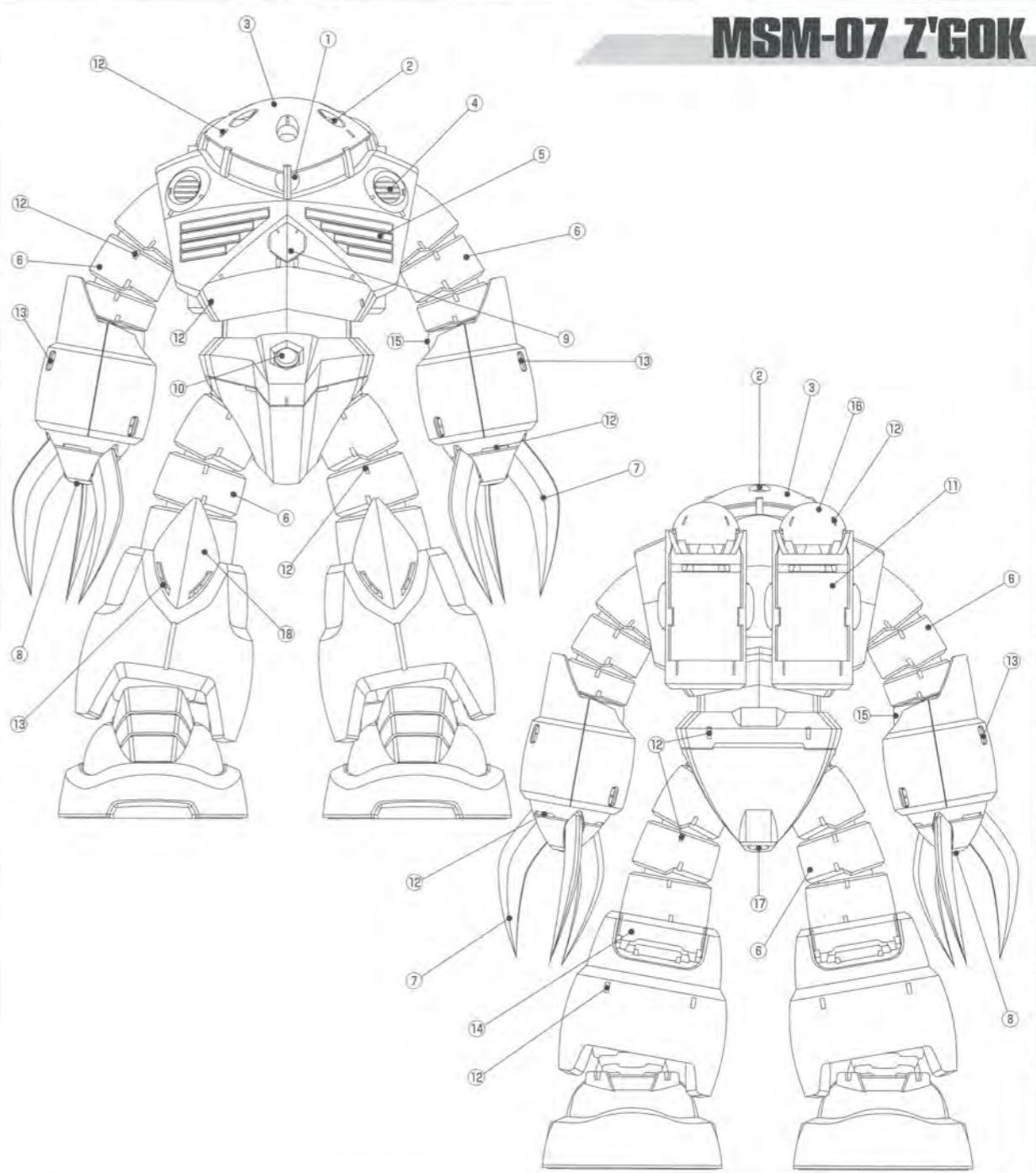
ジオン公国軍
量産型水陸両用モビルスーツ
MSM-07「ズゴック」
1/100スケール
マスターグレードモデル

BANDAI SPIRITS 2003 MADE IN JAPAN

5063538



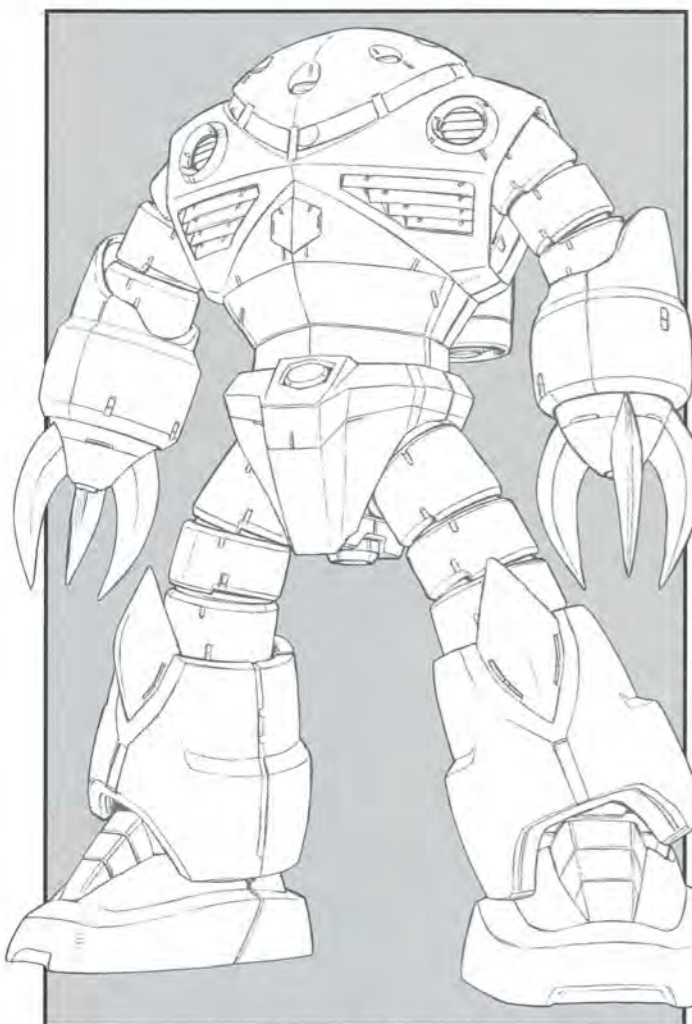
MSM-07 Z'GOK



- | | | | |
|-----------------|-----------------|----------------|--------------|
| ①メインカメラ | ⑥フレキシブル・ベロウス・リム | ⑪バックパック | ⑫アヘッドセンサーアレイ |
| ②ミサイルハッチ | ⑦アイアンネイル | ⑫フリユイドセンサー | ⑬バーニアスラスタ |
| ③センサーアレイドーム | ⑧メガ粒子砲 | ⑬アバフト/グランドセンサー | ⑭ニーアーマー |
| ④ウォーターインテーク/ダクト | ⑨コクピットハッチ/リフト | ⑭ニージョイント | ⑮エルボージョイント |
| ⑤エアインテーク/ダクト | ⑩マルチプルアクティブセンサー | ⑮エルボージョイント | |

※アバフト=船尾、アヘッド=艦の前方(艦船用語) ※フリユイド=流体

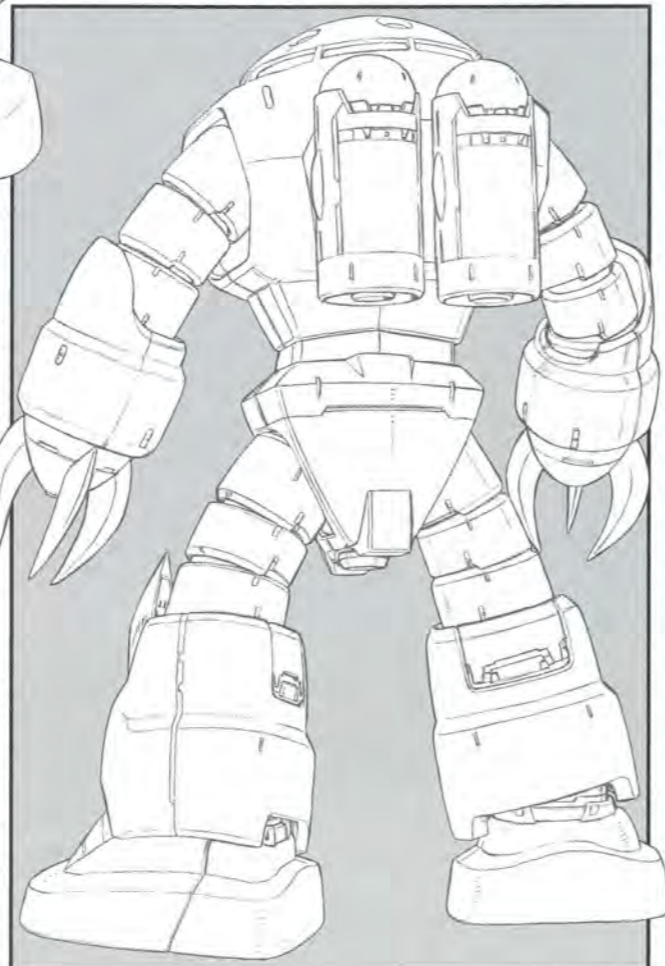
注) この機体は、カリフォルニア・ベースのMIP工廠において、比較的初期に生産されたものである。各地に展開する公国軍の潜水艦を擁する艦隊に配備され、洋上や沿岸部において、連邦軍施設や船舶、輸送機などに甚大な被害を与えた。後にジェネレーターや装甲などが改善された強化型も造られたが、水陸両用MSはこの機体でほぼ完成の域に達したとされている。



による功績とされている。航空戦力を大幅に損耗した連邦軍は、部隊の移動や兵站のため陸路か海路を多用するしかなかったのだが、それをまさに水陸で食い止めていたのが公国軍の水陸両用MSだったのである。

水陸両用MSは、地上においては展開や機動性に問題を抱えていた「MS」という兵器の「脚の短さ」を克服している点も無視できない。一説には無補給で地球を数周できるとまで言われているが、例え最高速度が100ノット程度(時速約180km)でも、その数値はあくまで最大戦闘速度であって巡航速度ではない。水陸両用MSは、母艦に積載するか、あるいは曳航されるのが前提の兵器である。無論、電撃的な強襲が必要な際には航行速度が要求されることは言うまでもないし、行動の秘匿が優先されるのであれば、水面下の地形に沿って移動することでソナーなどに発見される確率も低くすることができる。上陸目標より十分に離れた母艦から出撃し、敵に発見されることなく、揚陸艇などの運用も必要とせず、海中から直接上陸可能なことがこの系統の機体の最大の武器なのである。ともあれ、単純に「潜航艇」や「船舶」として考えても驚異的なスピードを持っていることに変わりはなく、機体の完成度や公国軍の技術力の高さを物語っているものの、パイロットの負担を考えれば、数時間の稼働が限界であり、とても地球一周などおぼつかないだろう。ましてや、機体の目的はあくまで戦闘行動であって、単騎での航続距離など、戦術的な要請がない限りほとんど意味がない。

ズゴックのスペックは、同時期に連邦軍が開発した量産MSを上回るとされ、ビーム砲やミサイルの標準装備という点を除いても、その格闘能力は目を見張るものがある。特に特殊加工が施されたクローは、熟練者であれば一撃でジムクラスの機体を撃破可能と言われ、また、航行用スラスタをはじめとする機動装備のほとんどは陸上においても使用可能であつたらしく、飛翔するような突進および離脱など、対MS格闘時の挙動に貢献している。戦争末期にはさらに高性能な機体もいくつか開発されたが、総合評価においてMSM-07ズゴックを超えるものはほとんどなかった。同機は各地で多大な戦果を挙げたが、11月下旬のジャブロー降下作戦への大規模な投入以降、12月上旬の連邦軍によるカリフォルニア・ベースの奪回など、公国軍海上戦力の衰退に伴って活躍の場を失った。加えて、艦船が投降する際に投棄されている場合が多く、戦後に回収された機体数も決して多くはない。



Conceptual illustration : Katoki Hajime

MSM-07 Z'GOK

公国軍における水陸両用MSの開発は、U.C.0079年2月の「地球侵攻作戦」の決定を待って本格的に着手された。初期の計画は06系の機体を改修して運用するというものだったが、MS-06Mザクマリンタイプは耐圧や装甲形状などの要素から、実戦に堪え得るものではなかったため、全く新たな観点から水陸両用MSが開発されることとなり、MSMというカテゴリーが作られた。同時に06MはMSM-01と改称され、水密構造や稼働部分に使用する部材などのテストヘッドとして使用されることとなった。

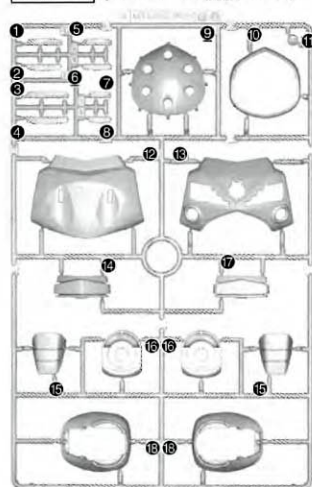
公国軍が開発した水陸両用MSは、空間及び陸戦用の標準的な機体と比べ、単純計算で2〜3倍のジェネレーター出力を持っている。これは、水冷構造などを取り入れた新たな冷却システムが開発されたことによって可能となったもので、ビーム兵器の搭載も宇宙用、地上用の機体と比べ、比較的早期に達成された。

MSM-07ズゴックは、先に完成したMSM-03ゴッグと比較してかなりの時間、陸上での戦闘を可能としている。ズゴックの開発はゴッグの直後に開始されていたが、最終設計にあたってはゴッグの実働データをもとに多くの改良が施されたため、完成はMSM-04アッガイなど特殊用途の機体に遅れることとなってしまった。ただし、そのぶん陸戦にも充分対応可能な完成度の高い機体となっており、対MS戦闘においても、パイロットによってはザクを上回る戦績を残している。

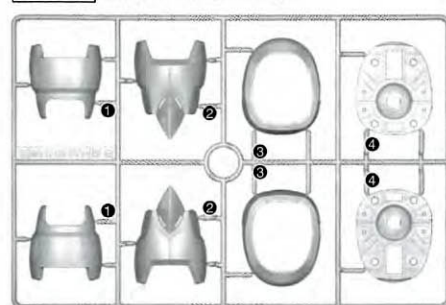
ズゴックを始めとする水陸両用MSの生産は主にカリフォルニア・ベースにおいて行われており、連邦軍の勢力圏内にある港湾施設の破壊や制圧、海上輸送路の寸断にも威力を発揮した。機体の多くは各地の潜水艦隊に配備され、強襲作戦や上陸作戦においても多大な戦果をあげている。また、ジャブロー降下作戦における隠密施設の発見や哨戒などにおいても水陸両用MSの果たした役割は大きく、公国軍が制圧地域の支配を維持できたのも、これらの機体

パーツリスト

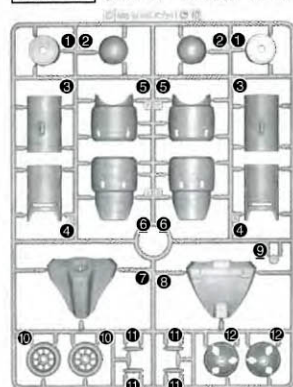
Aパーツ (スチロール樹脂: PS)



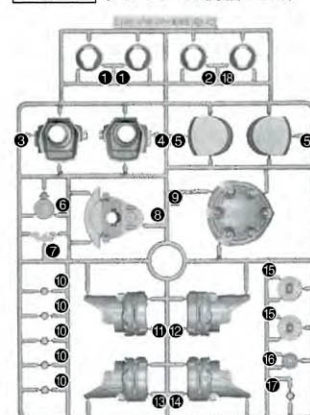
Bパーツ (スチロール樹脂: PS)



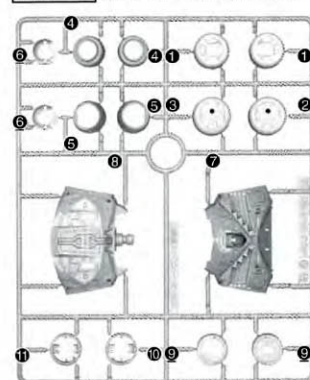
Cパーツ (スチロール樹脂: PS)



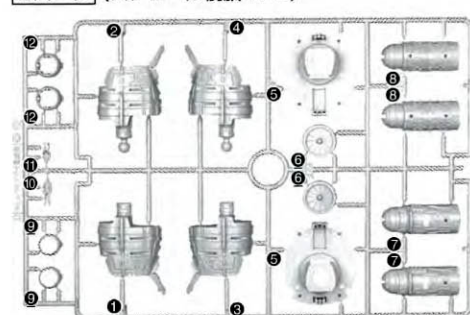
Eパーツ (スチロール樹脂: PS)



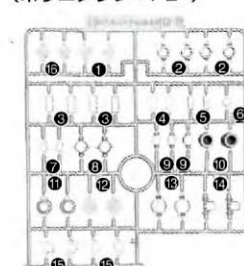
Fパーツ (スチロール樹脂: PS)



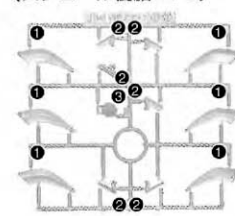
Dパーツ (スチロール樹脂: PS)



Iパーツ (ポリエチレン: PE)



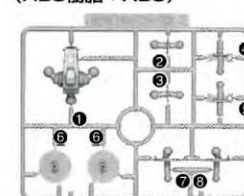
Jパーツ (スチロール樹脂: PS)



Gパーツ (合成ゴム: TPE)



Hパーツ (ABS樹脂: ABS)



マーキングシール..... 1枚
ガンダムデカール..... 1枚

注意

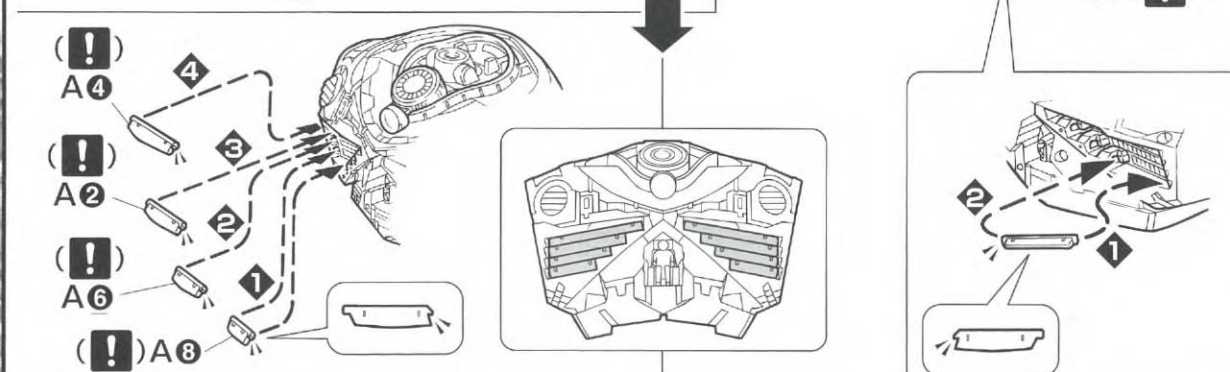
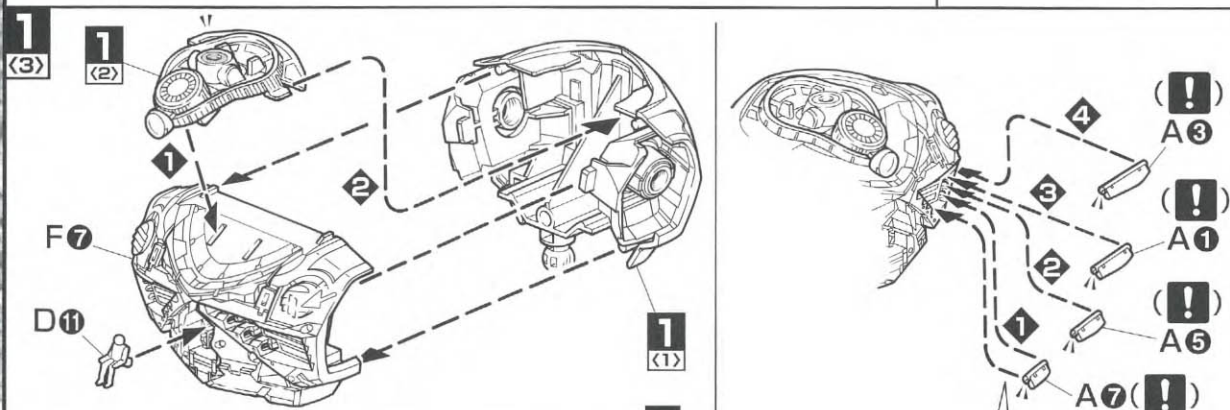
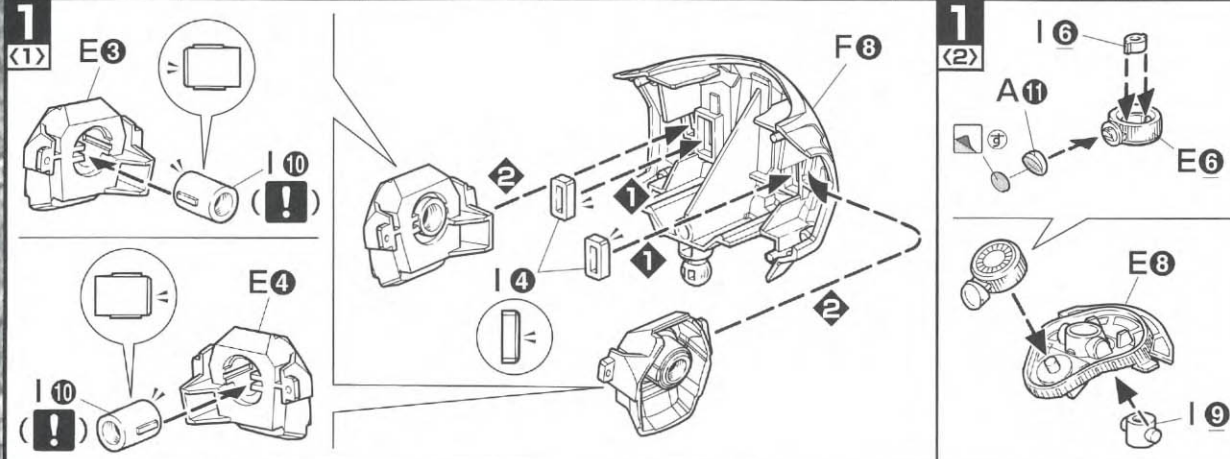
必ずお読みください

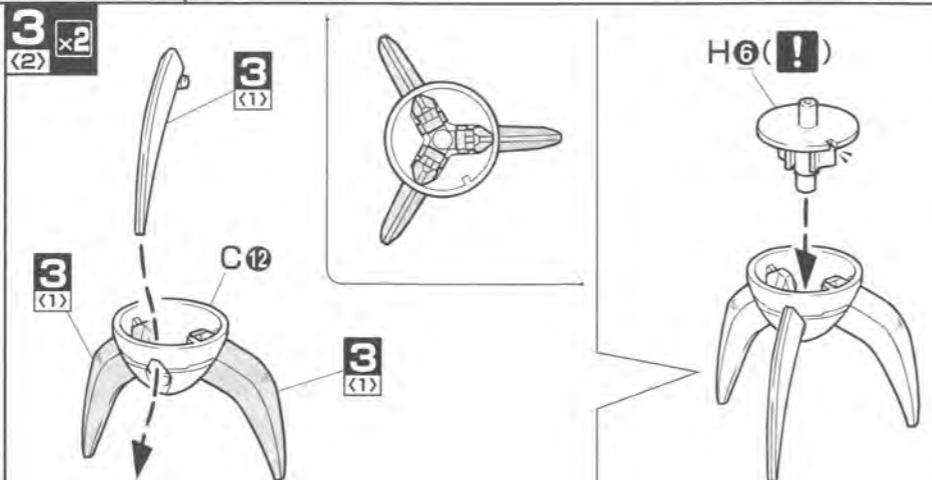
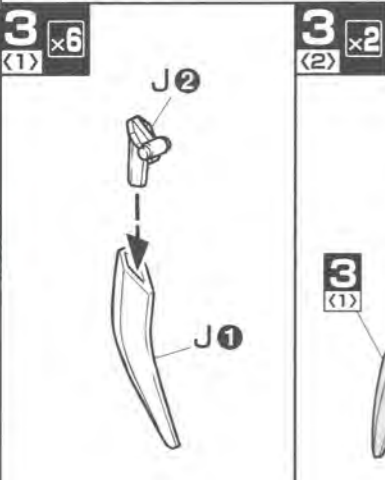
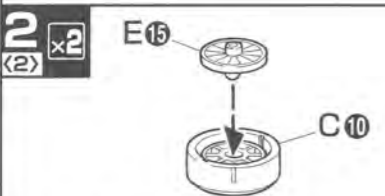
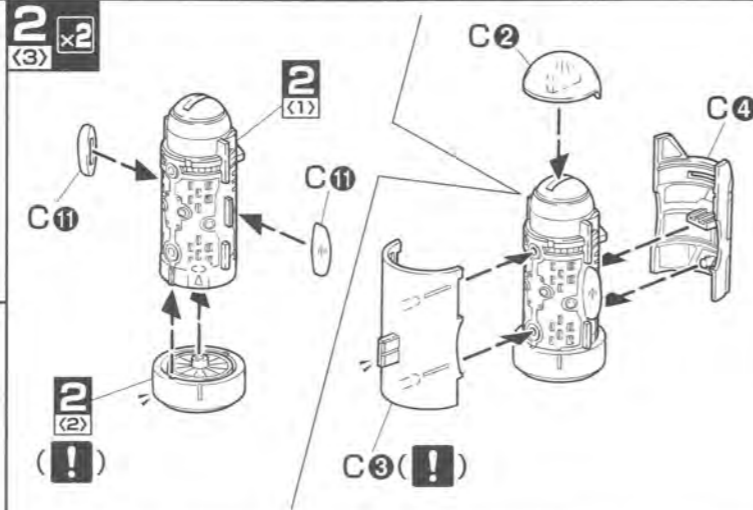
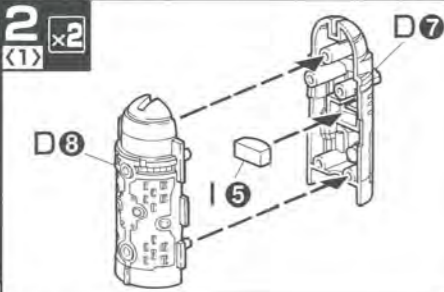
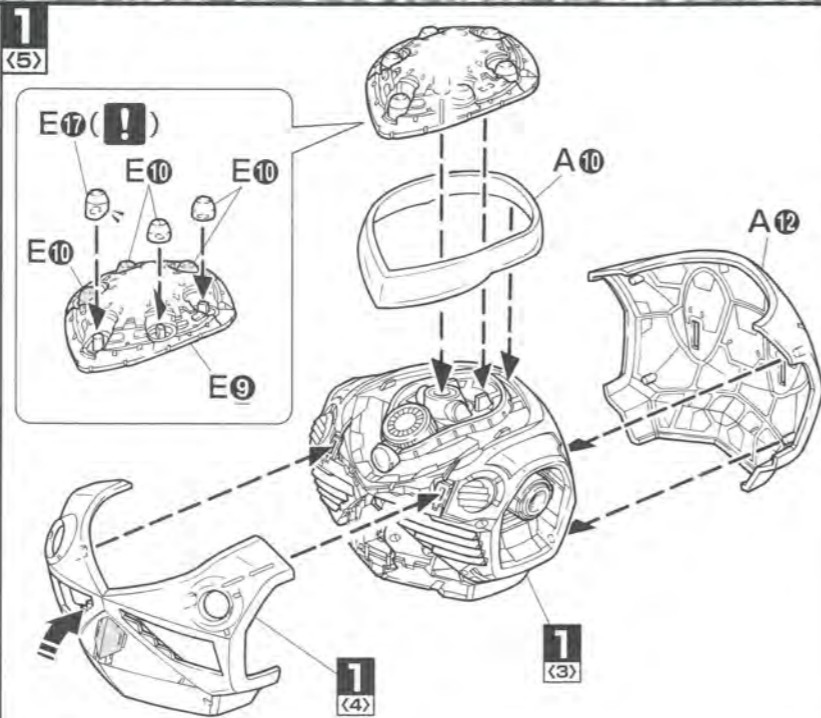
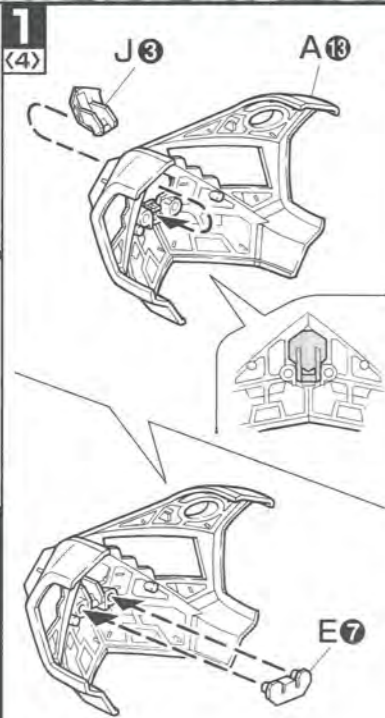
- この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- 誤飲の危険がありますので、3才未満のお子様には絶対に与えないでください。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

〈組み立てる時の注意〉

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
- ※ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

・接着をするところの線	・シールの番号	・デカールの番号	・反対側に取り付けるパーツ	・両側に同じパーツを取り付ける	・向きに注意して取り付ける	・ビスの締めすぎに注意
・切り取る場所	・部品を数値の個数作ります	・先に組み立てます	・後に組み立てます	・数値に合わせて回転させます	・どちらかを選んで取り付ける	・反対側も同じように動かします

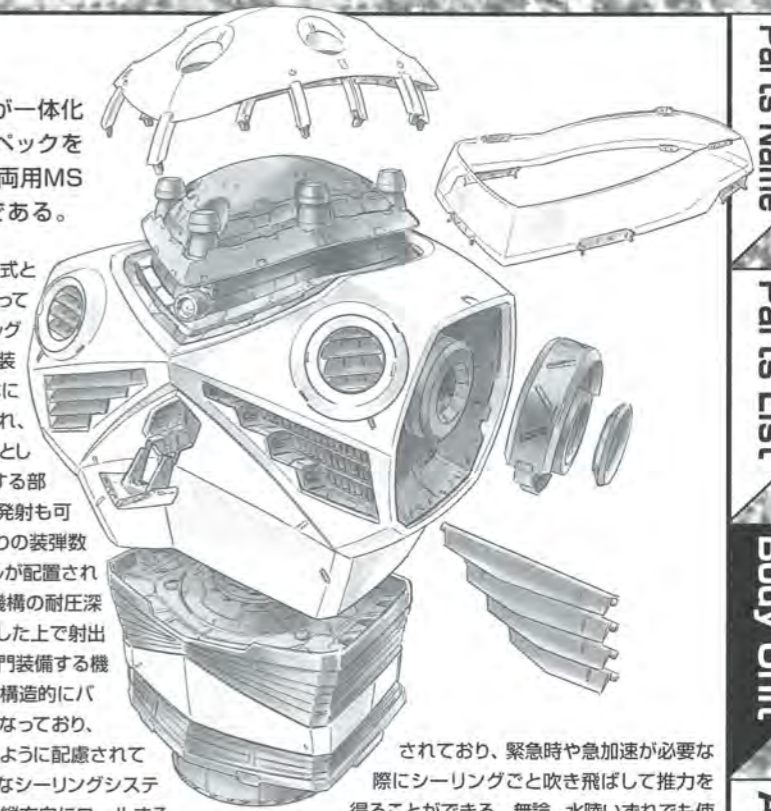




BODY UNIT

ズゴックのボディユニットは、頭部と胴体部が一体化された構造を持っている。これは、高い要求スペックを達成すべく、並行して開発されていた他の水陸両用MSのノウハウを存分に盛り込んだフォームなのである。

ズゴックをはじめとする水陸両用MSは、冷却機構を水冷式とすることでジェネレーターの高出力化を達成した。それに伴ってビーム兵器のドライブも可能となり、初期の量産型であるゴック以降、ほとんどの機体がメガ粒子砲を内蔵あるいは標準兵装とすることができたのである。加えて、ズゴックは他の機体に比べて開発期間が長かったため、内装機関の配置も整理され、特にその機動性と運動性の高さは特筆すべき点であり、MSとしてのスペックも非常に高いものとなっている。頭部に相当する部位には各種センサーが内装され、次いでその周囲には水中発射も可能な240mmミサイルを射出する発射管があり、一基あたりの装弾数は5発。さらにそれを取り囲む形でモノアイとモノアイレールが配置されている。発射管はある程度の与圧もできたようだが、射出機構の耐圧深度はさほど深くはなかった。基本的には上陸、あるいは浮上した上で射出するようになっている。ほとんどの機体は6門装備するが、8門装備する機体もあったという資料も存在する。ちなみに、機体の各所は構造的にバルクヘッド(一定間隔で機体を区切り防水壁とする)構造となっており、それぞれ独立して与圧され、隣接したユニットに浸水しないように配慮されている。また、ズゴックのコックピットハッチは、昇降装置と強固なシーリングシステムを兼ねた構造となっているほか、シートはコンソールごと縦方向にロールする構造となっており、巡航時など機体が傾斜している場合には進行方向に正対することができる。さらに、股関節下端には小型高出力のバーニアスラスターが装備



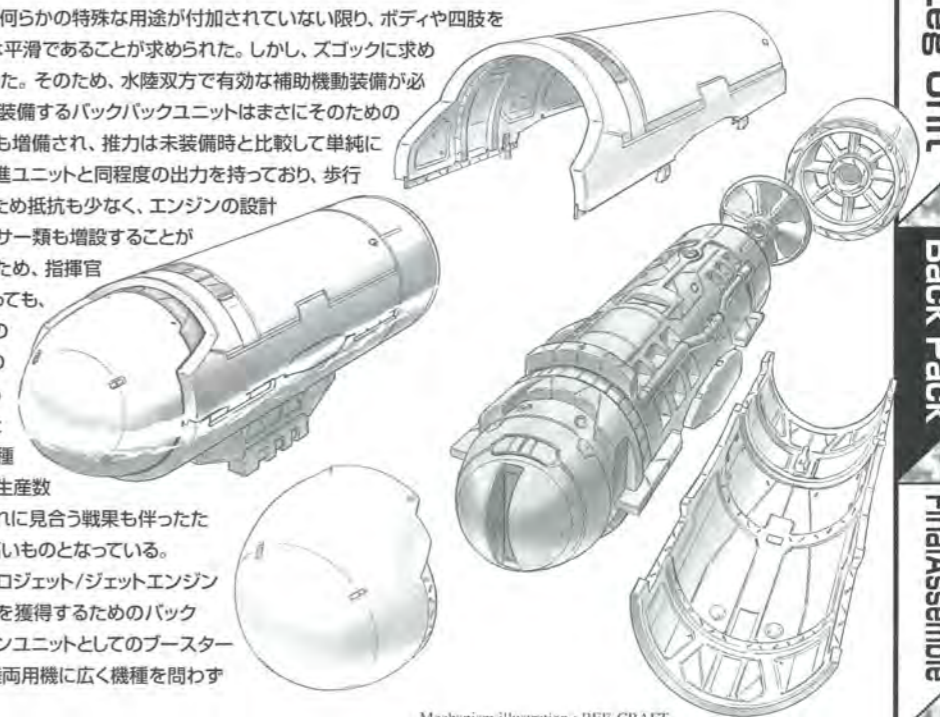
されており、緊急時や急加速が必要な際にシーリングごと吹き飛ばして推力を得ることができる。無論、水陸いずれでも使用可能だが、稼働できる時間はさほど長くはない。

BACK PACK

公国軍における水陸両用MSの開発要求においては、機体形状の整流効果そのものも審査の対象となっていた。そのため、ズ

ゴック以前に開発された機体の多くは、何らかの特殊な用途が付加されていない限り、ボディや四肢を含む全体の形状そのものも、航行時には平滑であることが求められた。しかし、ズゴックに求められたスペックは非常に高いものであった。そのため、水陸双方で有効な補助機動装備が必要とされたのである。ズゴックが背部に装備するバックパックユニットはまさにそのためのものであり、それに対応してインテークも増備され、推力は未装備時と比較して単純に倍加している。バックパックは足下の推進ユニットと同程度の出力を持っており、歩行する必要がないぶん単純な構造であるため抵抗も少なく、エンジンの設計もほぼ流用できたうえ、先端部にはセンサー類も増設することができ、若干だが通信能力も強化されたため、指揮官機としての運用も可能となった。とはいえ、熱核 hidro ジェット/ジェットエンジンの構造は非常に複雑であり、タービン内の複数のブレードはそれぞれフィンとしてもスクリューとしても機能する必要があったため、メンテナンスのコストもまた他機種と比較して高騰してしまった。それでも、生産数が増えるに連れて歩留まりも安定し、それに見合う戦果も伴ったため、ズゴックの最終的な評価は非常に高いものとなっている。

後に、さらに出力の大きな熱核 hidro ジェット/ジェットエンジンの開発が可能となり実効的な航行速度を獲得するためのバックパックは不用となったが、逆に、オプションユニットとしてのブースターバックが開発され、一年戦争末期の水陸両用機に広く機種を問わず運用されるようになった。



Mechanism illustration : BEE-CRAFT

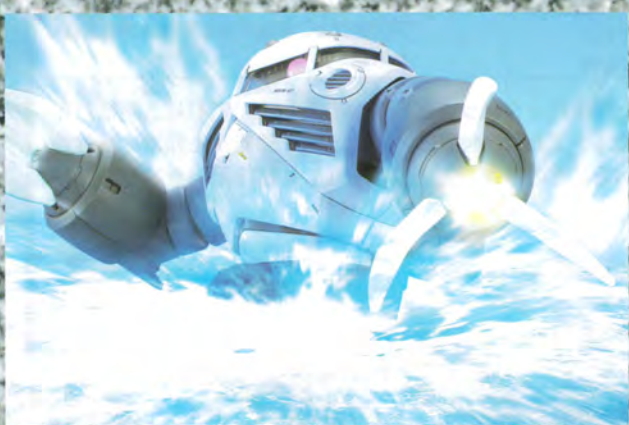


Z'GOK IS SUITABLE FOR ME

U.C.0079年11月、北アイルランドの連邦軍ベルファスト基地から応急修理を終えた木馬が発進する。スパイの情報からその日時を察知したシャアは、ユーコン艦長のフラナガン・ブーンに攻撃を命じ、スパイには木馬への潜入を指示する。「大佐はマッド・アングラーにお帰り下さい。やってみせます」「あてにしているぞ」シャアのシーランスを見送り、ブーンのユーコンはゴック、スゴックを発進させる。ユーコンのドックからブルーの機体が海中に踊り出る。「調子は良好だ。俺にはゴックよりコイツの方が性に合っている感じだな……」スゴックを駆るカラハは、腕を鳴らしながらひとりこちた。

HARD BATTLE OF GUNCANNON

敵の奇襲を受けたベルファスト基地は大混乱に陥っていた。「セイラさん！敵は一機じゃないようです」「了解！」アムロがガンダムを駆って出撃するものの、海中からの一撃離脱攻撃に苦戦を余儀なくされる。艦を降りたカイに代わり、ハヤトがガンキャノンで出撃する。「これ以上、近づけさせるものか！」「しぶとい、よーし！」ブースターを使って海上に飛び出したカラハのスゴックは、ビームを撃ちながらガンキャノンに迫ると、そのまま両腕をつかんで引きちぎろうとする。「うわーっ」ハヤトの危機にカイのガンタンクが駆けつけ、さらに横合いからガンダムが迫る。「くっ、水中に誘い込んで一気にケリを着けてやるぞ！」しぶきをあげながらスゴックは海中に姿を消した。



ACTION POSE



INNER FRAME



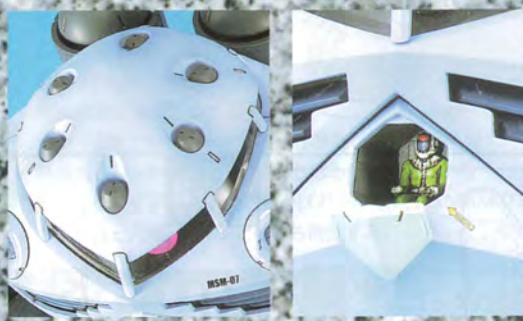
WHAT A CHEAPSKATE!

カラハのスゴックは水中から姿を現わしたかと思うや、ビームを数発撃っただけでまた海中に姿を消し、アムロたちを翻弄する。「こ、こいつっっ！」「こっちは本物のガンダムらしいが、これでおしまい！」海面に大きな水柱が上がると、水際の乱戦をよそに、セイラ機が敵母艦を撃沈した。「こちらセイラ。敵艦撃沈！その衝撃をもとめず、ガンダムにスゴックが迫る。「逃がすかい！」叫びながら、カラハのスゴックはガンダムを追って海上に飛び出した。しかし、カイのガンタンクが絶妙なタイミングで撃った砲弾がスゴックの動きをとめた。「うおーっ！」アムロのガンダムは大きく振りかぶり、カラハのスゴックに迫る！

PAINTING

※よりリアルに仕上げたい場合は、下の基本色をご確認ください。
 ※塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
 ●このキットをよりリアルに塗装したい方は、(株)GSIクレオスより発売のガンダムカラー(「スゴック」用、その他カラーセット)をお使いください。
 ●ABS樹脂部分への塗装は剥落する恐れがありますので、塗装はお控えください。

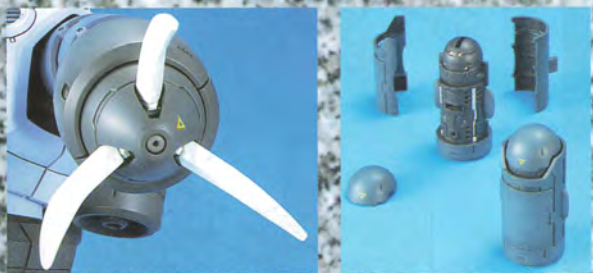
本体等ライトブルー部の塗装色。 ホワイト(85%) +パープル(10%) +インディブルー(5%) ※またはガンダムカラー バイオレット2	内部メガ等ダークグレー部の塗装色。 ミッドナイトブルー(100%)
前腕、スネ等ダークグリーン部の塗装色。 濃緑色(70%) +ディートナグリーン(25%) +ブラック(5%) ※またはガンダムカラー グリーン2	頭メイル等グレー部の塗装色。 ニュートラルグレー(60%) +ミディアムブルー(40%) +レッド少量
上腕等ブルー部の塗装色。 インディブルー(50%) +ホワイト(20%) +レッド(20%) +ブラック(10%) ※またはガンダムカラー ブルー6	モノアイピンク部の塗装色。 蛍光ピンク(100%)
ツメ等ホワイト部の塗装色。 ホワイト(95%) +ディートナグリーン(5%)	



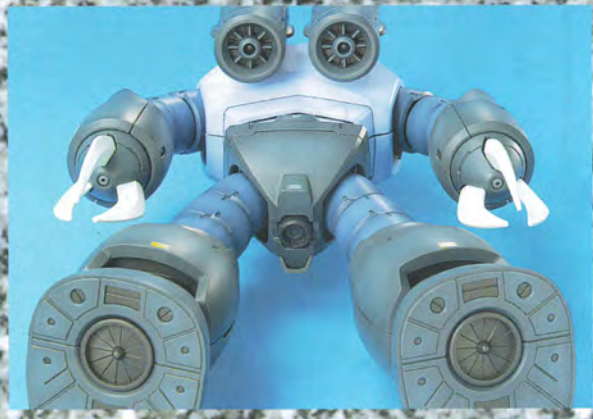
FRONT VIEW



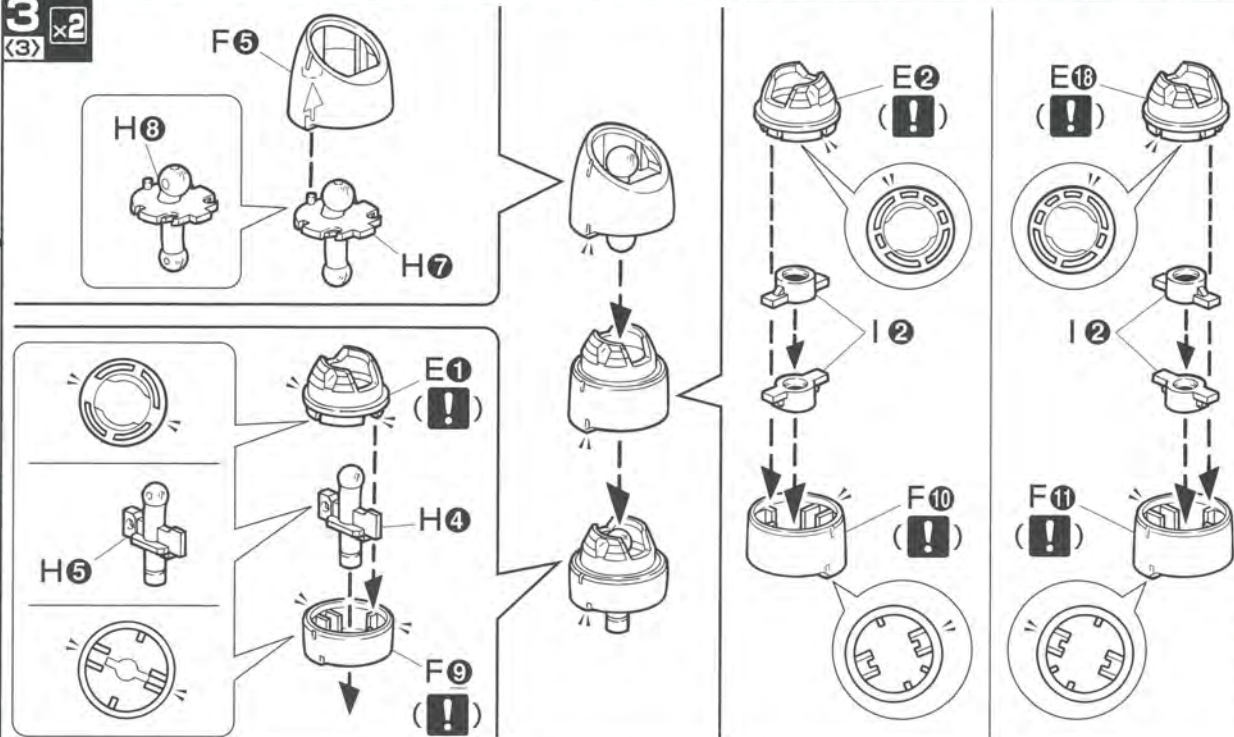
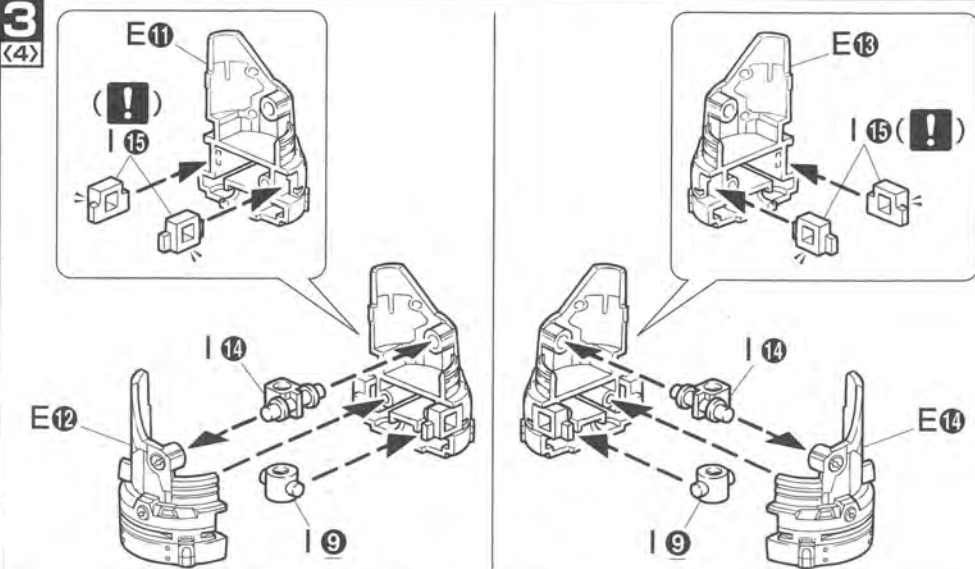
REAR VIEW



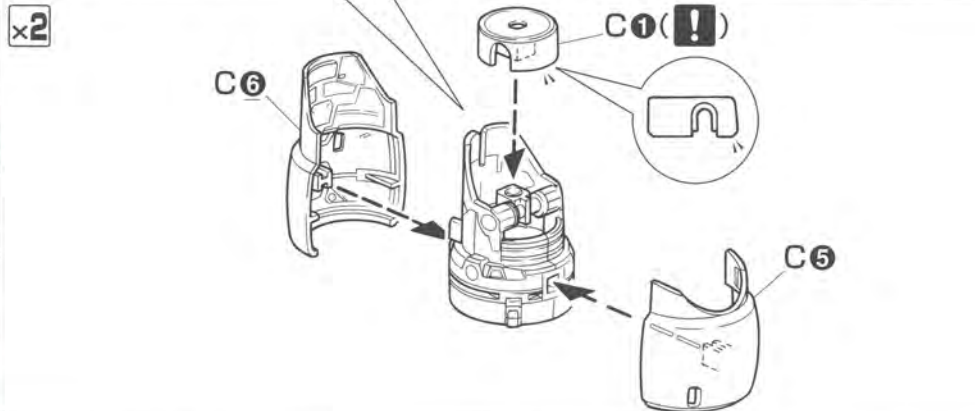
▲腕部のアイアンネイルは開閉可能。付け根中央のメガ粒子砲も再現。
 ▲背部バックパックは、カバーが脱着可能。内部はメカディテールを表現。



▲バックパックや足の底部等には水中推進用のスクリュウディテールを再現。

3
(3) x23
(4)

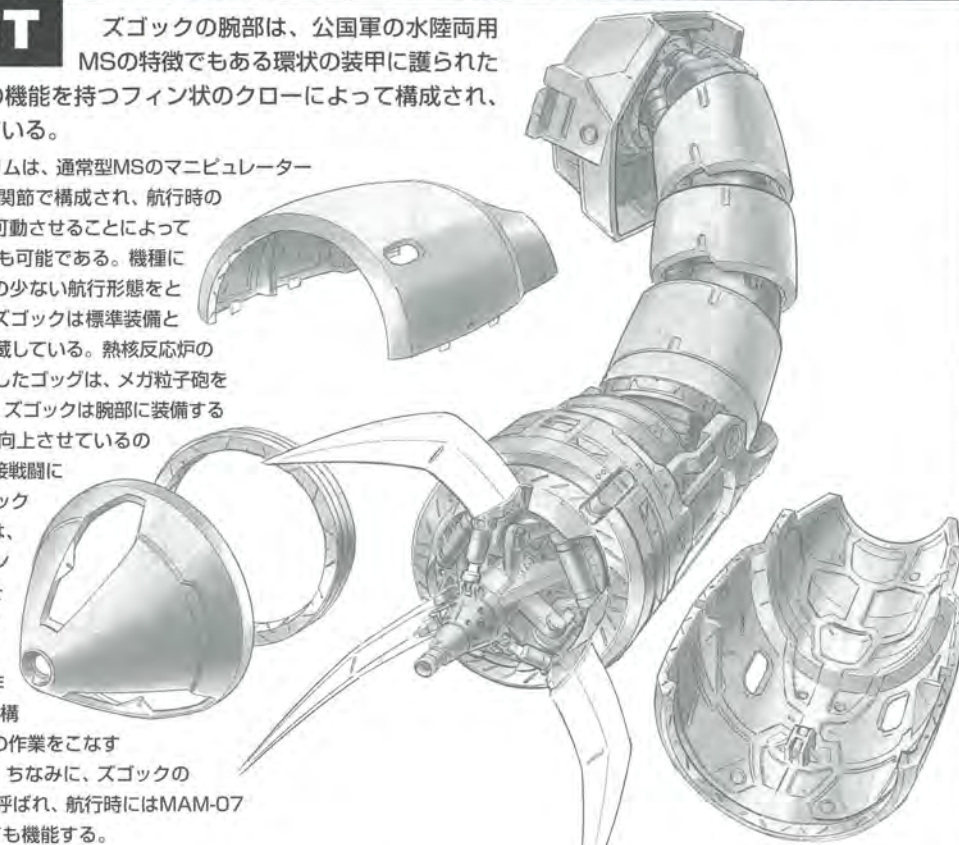
x2



ARM UNIT

ズゴックの腕部は、公国軍の水陸両用MSの特徴でもある環状の装甲に護られた柔軟な可動肢と、複数の機能を持つフィン状のクローによって構成され、メガ粒子砲をも装備している。

フレキシブル・ベロウズ・リムは、通常型MSのマニピュレーターと違い、自由度の高い複数の関節で構成され、航行時の抵抗を減らし、逆に能動的に可動させることによって水中での機動に援用することも可能である。機種によっては伸縮して、より抵抗の少ない航行形態をとれるものもあった。さらに、ズゴックは標準装備として両腕部にメガ粒子砲を内蔵している。熱核反応炉の冷却に水冷構造を初めて採用したゴッグは、メガ粒子砲をボディ部分に装備していたが、ズゴックは腕部に装備することで、使い勝手を飛躍的に向上させているのである。先端部のクローは近接戦闘には武装として機能する。ズゴックをはじめとする水陸両用MSは、機体運用の問題からオプション兵装の携行が困難であった。そのため、斬撃武装の代替案として打突、あるいは斬撃用に装備されたが、実戦においては非常に有効に機能した。開閉機構を使ってマニピュレーター並の作業をこなす熟練パイロットもいたらしい。ちなみに、ズゴックのクローはアイアンネイルとも呼ばれ、航行時にはMAM-07グラブと同様、フィンとしても機能する。

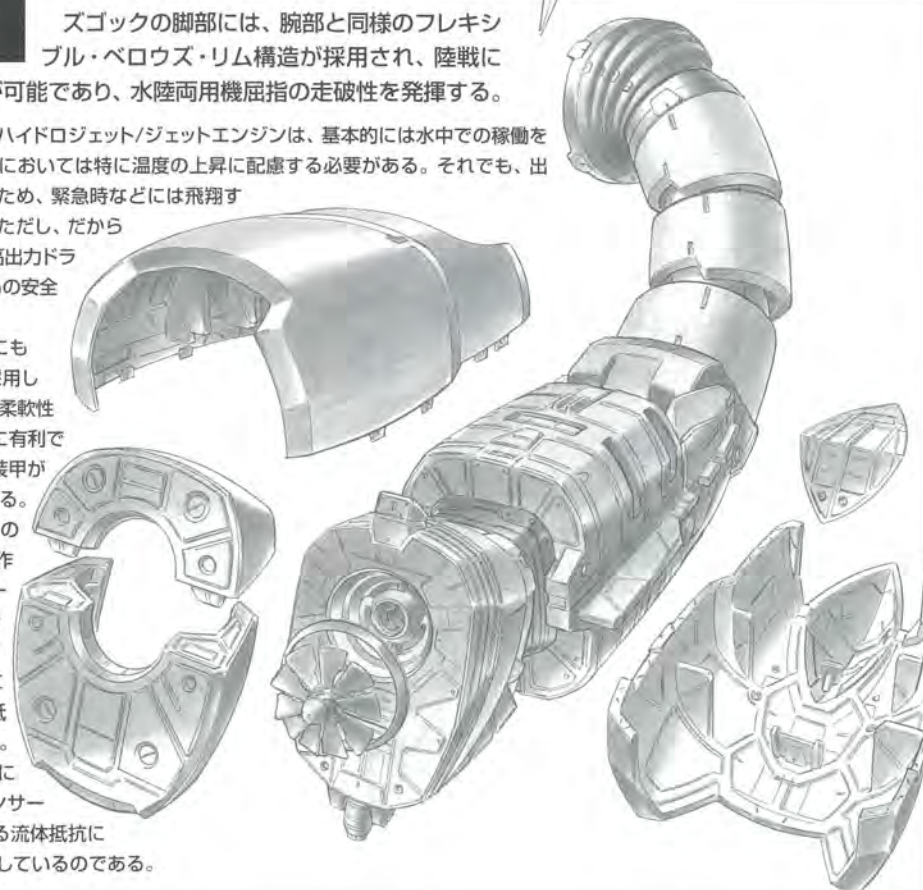


LEG UNIT

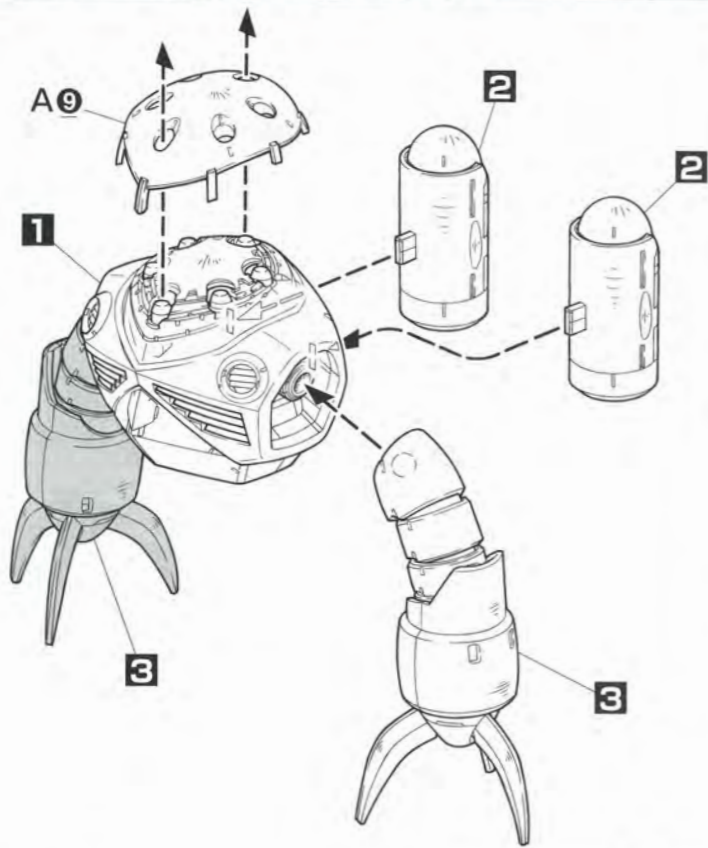
ズゴックの脚部には、腕部と同様のフレキシブル・ベロウズ・リム構造が採用され、陸戦においても軽快な歩行、走行が可能であり、水陸両用機屈指の走破性を発揮する。

ズゴックが足部に内装する熱核 hidro ジェット/ジェットエンジンは、基本的には水中での稼働を前提に設計されているため、陸戦においては特に温度の上昇に配慮する必要がある。それでも、出力そのものは通常のMSを上回るため、緊急時などには飛翔するような加速が可能となる。ただし、だからといってホバー走行のように連続高出力ドライブは構造上不可能であり、何重もの安全装置が施されている。

また、構造上、ズゴックは脚部にもフレキシブル・ベロウズ・リムを採用しており、通常のMS以上の運動性と柔軟性を持つ。この構造が水中での機動に有利であることは前述したが、それらの装甲が環状であることの利点は他にもある。つまり、ズゴックなどの腕部は、その接合部分が機体周辺に小さな渦を作り出すボルテックスジェネレーター（渦流発生器）として機能するのである。フレキシブル・ベロウズ・リムは、機体周辺に小さな渦を任意に作り出し、機体全体としての流体抵抗を減らすことができるのである。ズゴックは環状装甲の接合部などにスリット状のフレイド（流体）センサーを持っており、機体周辺に発生する流体抵抗に対応してそれぞれの配置を微調整しているのである。

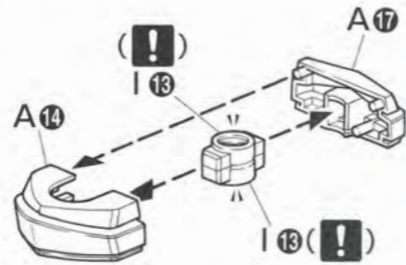


4



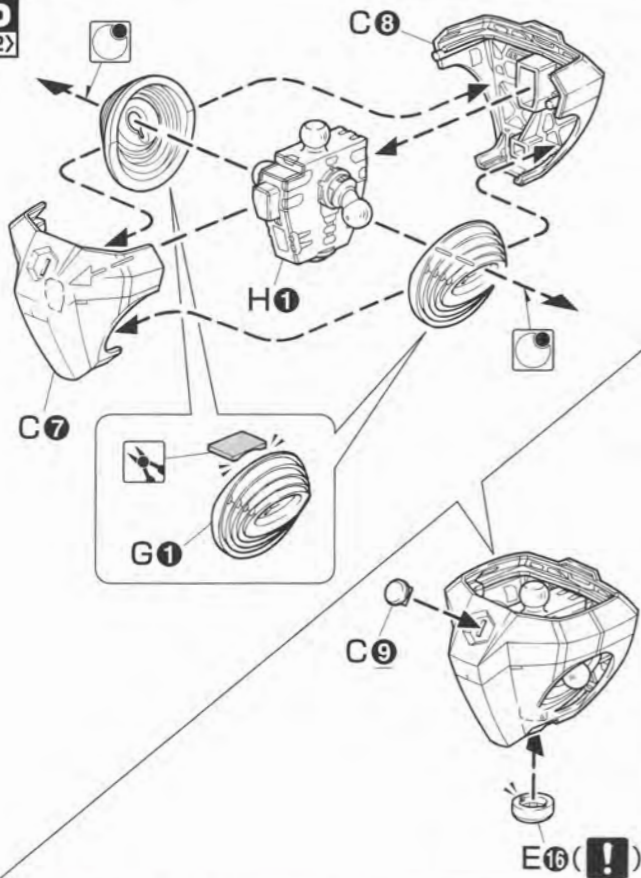
5

(1)



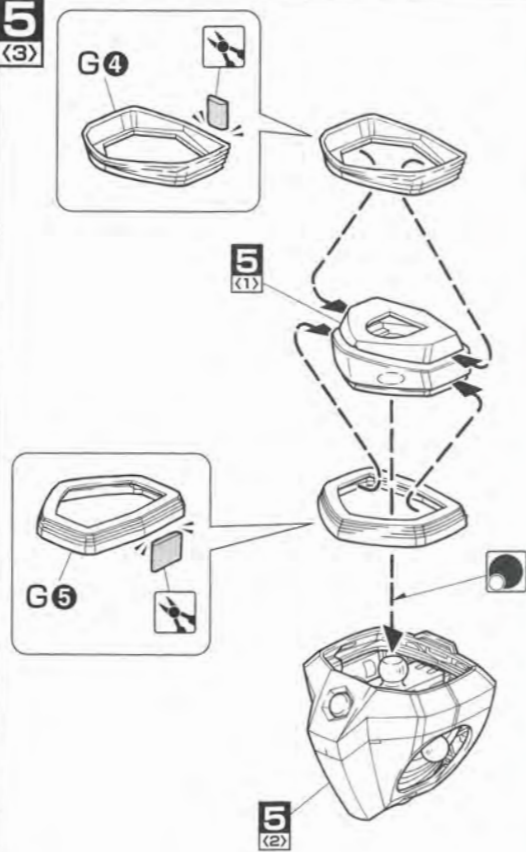
5

(2)



5

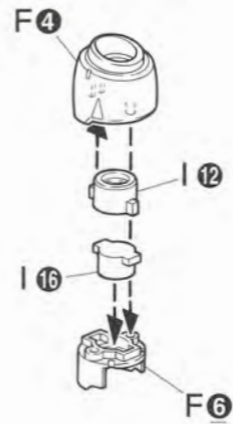
(3)



6

(1)

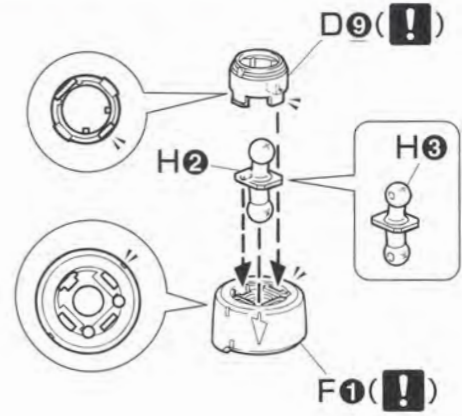
x2



6

(2)

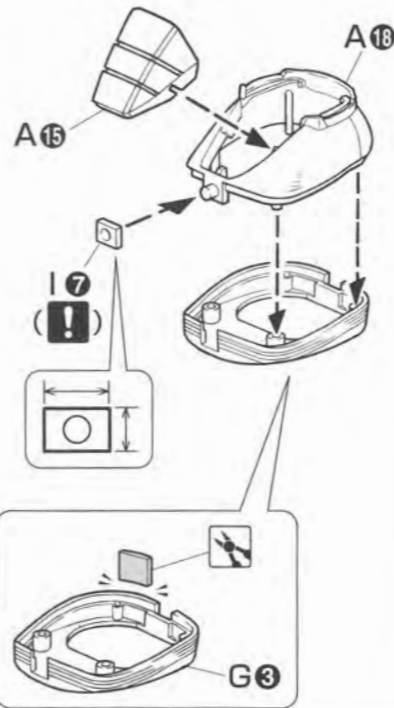
x2



6

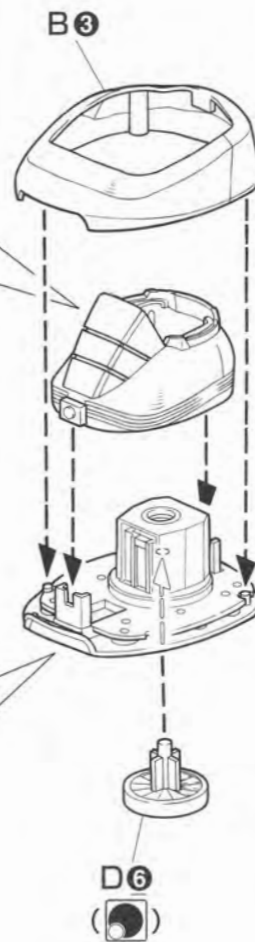
(3)

x2



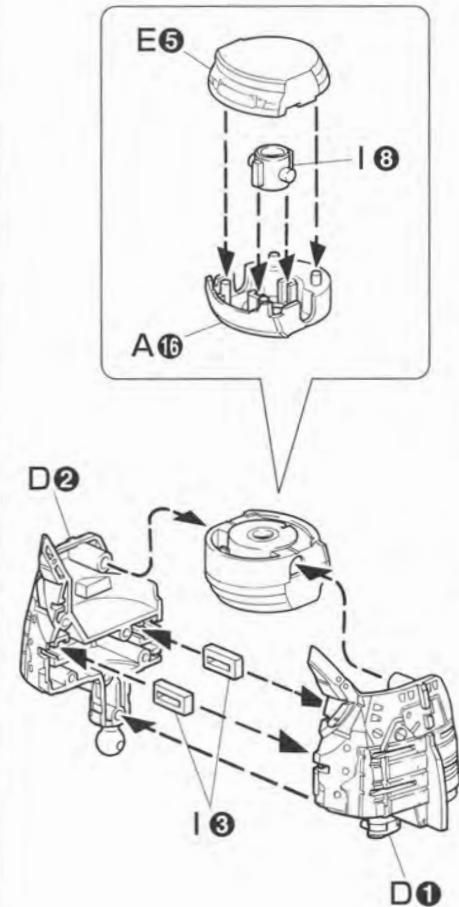
7

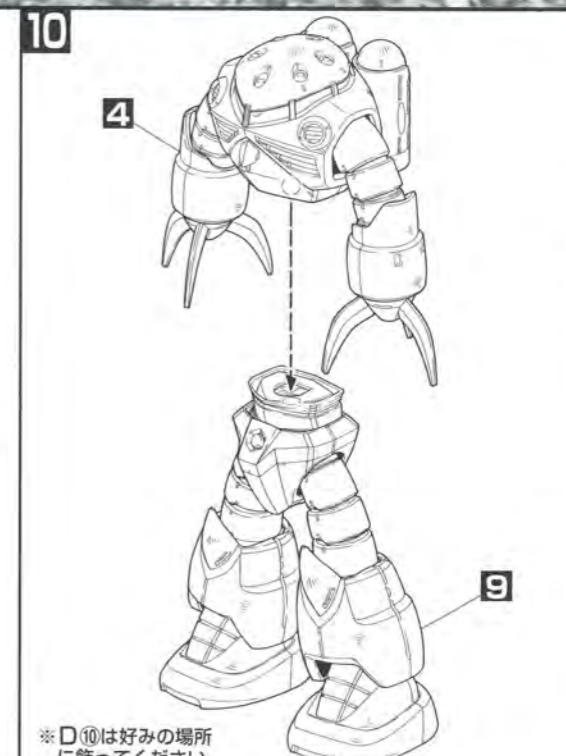
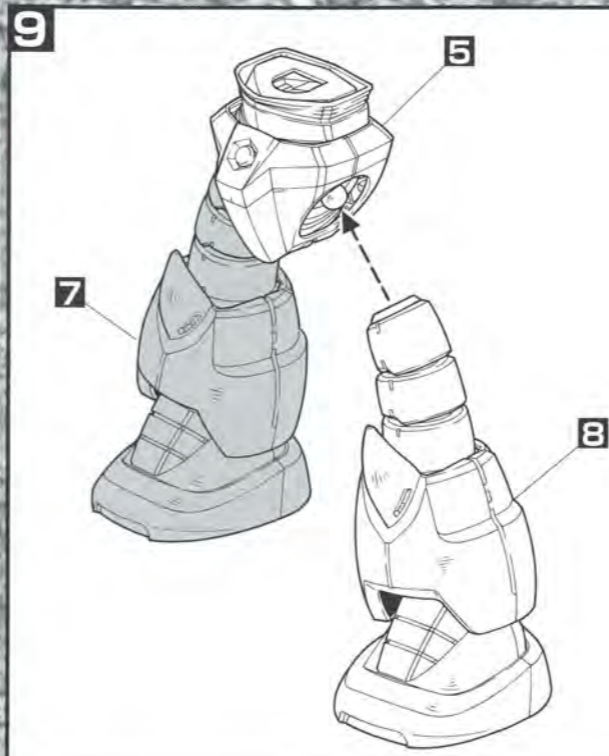
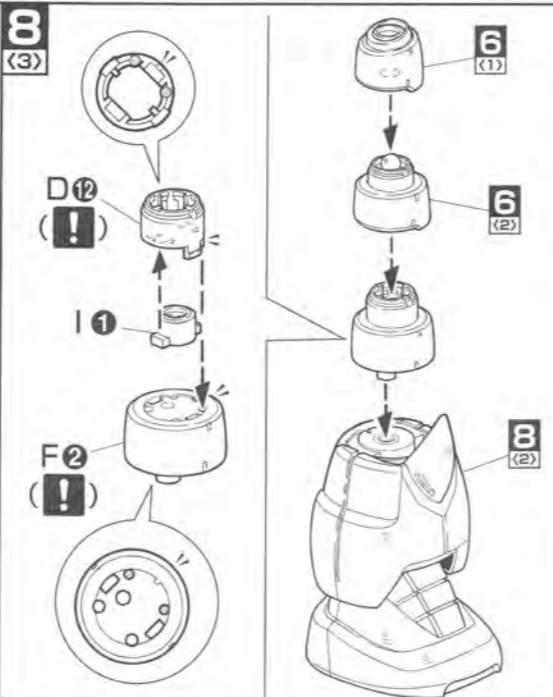
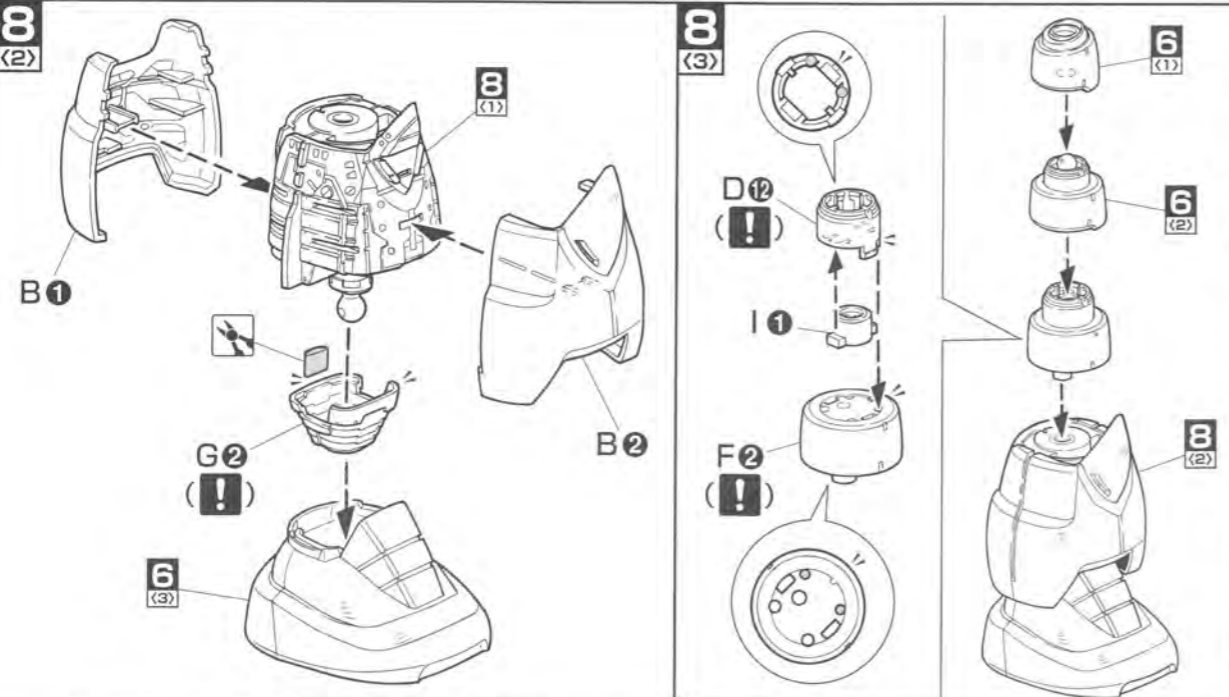
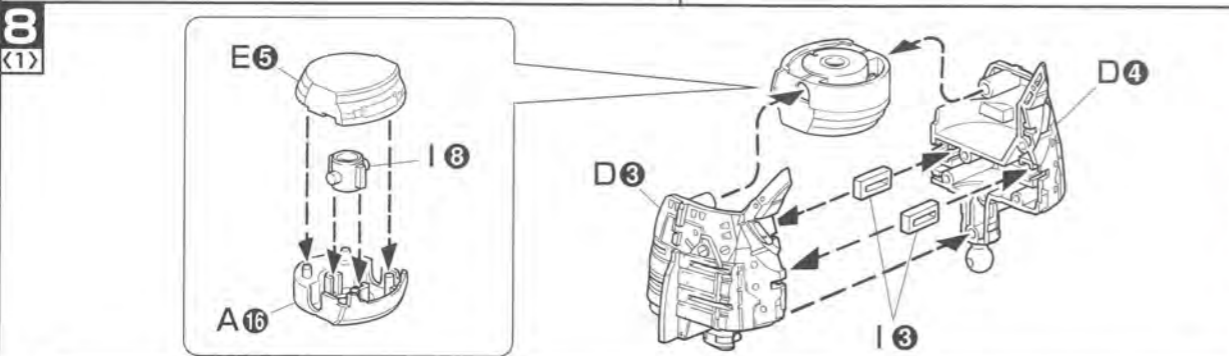
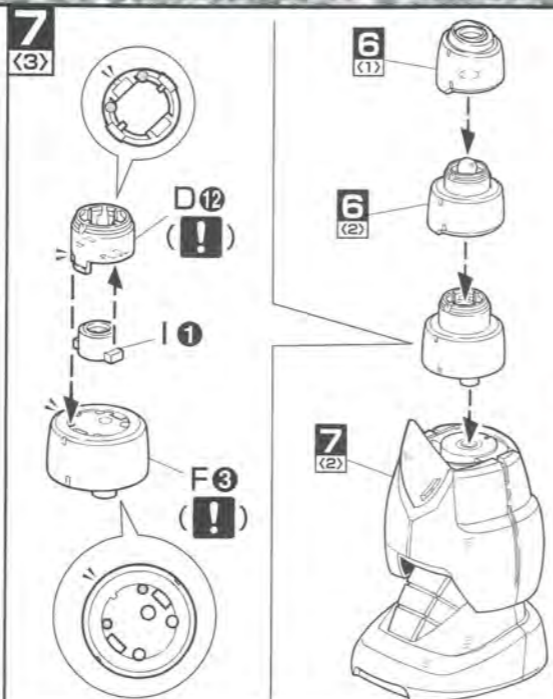
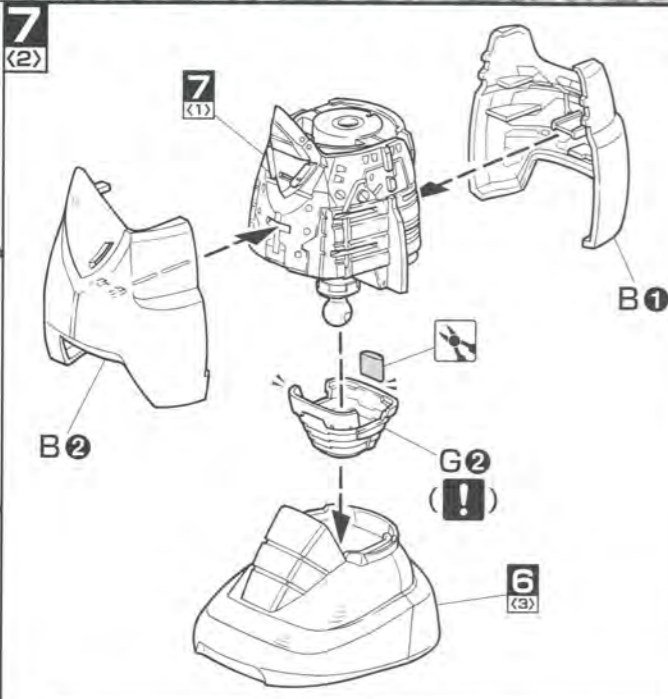
(1)



7

(1)

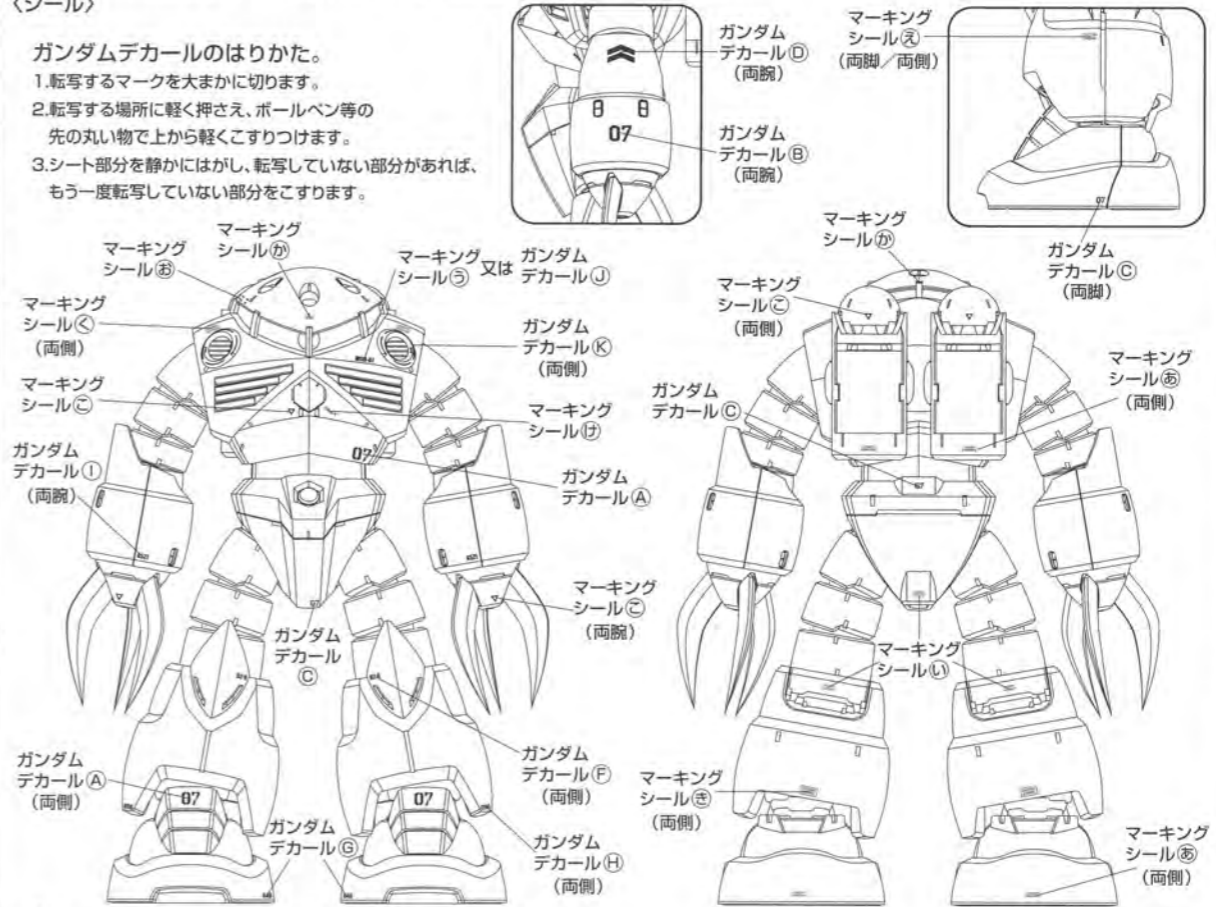




*D10は好みの場所に飾ってください。

Seal 下の図を見て、ガンダムデカールやシールのはる位置を確認してください。
 <シール>

ガンダムデカールのはりかた。
 1.転写するマークを大きめに切ります。
 2.転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
 3.シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすります。



*余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。